

「新基本計画」策定に関する市民懇談会 要旨

※発言要旨を記録し、個人名などは伏せさせていただきました。

平成 25 年 8 月 18 日（日）

午前 10 時から 11 時 30 分

市公民館 講堂

山下市長あいさつ、計画の概要説明の後、懇談会を行いました。
懇談会において市民の皆さんからいただいたご意見を掲載します。

【質問者 1】（税収、人口等の見込み方、出し方について）

- ・説明に税収見通し、人口見通しのグラフがあるが計画で一番大切なのはこの見込みを持ちながらどのように事を進めるかである。
- ・1つの見込みを示すのではなく台風の進路予想のようにどちらに振れても対応ができるような見込みを作り上げる方がよい。

【市長】

- ・お示しした税収や人口推計のグラフはいつも出しているが大事なところである。
- ・地域の課題、現状の共通認識を行政と市民がともに持つことが出発点であり、非常に重要である。
- ・大きく社会が変わろうとしていく中で行政の進め方や地域づくりのあり方を根本的に変えていかないと我々が求めるような安心で元気な魅力ある地域が実現できないという危機感を持っている。
- ・そういう意味で危機感を共有し、市民の皆さんと一緒に進めることにつなげていきたいという意味で、最近はやや厳しい状況であることを訴えている。
- ・ご指摘いただいたようにわかりやすくするために一層頑張る必要があるがなかなか難しいご指摘である。
- ・研究はするがあくまで現在の国が出している情報からの推計値であり、これ以上のものは現在、持っていない。
- ・近い将来このままで行くと小牧も間違いなく人口減少に転じると申し上げているが減少に転じさせたくないという思いで施策をうっていくため、結果として人口が減ると言っていたが減らないということを目指すわけである。
- ・ただし、事前にどこまでグラフとしてお示しできるのか、あるいはお示しして説明がしきれぬのかどうかの問題がある。

- ・前向きに研究はするがどこまで出来るのかはよく研究したい。

【質問者 1】（戦略の柱について）

- ・先程、戦略 1、2、3 の説明を聞いたが基本的には結構な考え方だと思う。
- ・戦略 1 は厳しいといいながらも市民に力を与え、元気にして、頑張っていくという力強いメッセージを表しており理解ができる。
- ・戦略 2 は行政にとっては最悪のシナリオになった場合、行政として守っていくものが結集されていると感じた。
- ・戦略 3 は資源が減少する中でその資源を補うためにこういう手立てをとりたいという思いが表れているように受け止められた。
- ・各戦略について 6 項目ずつあるがそれぞれ 3 項目くらいに絞った方がいい。6 つになると総花になるのではないか。

【市長】

- ・戦略 1、2、3 であるが受け止め方は色々と皆さんであるかもしれないが【質問者 1】さんが受け止めた形は非常に私の認識とも近いと感じた。
- ・戦略 3 については、分権社会においてはそれぞれがよりチャレンジをしなければならない社会にしようということであったり、行政改革を一体的に進めるべきだとかも含めて掲げさせていただいている。
- ・戦略の取組みを 3 つくらいに絞れないかということについてはご意見として承りたい。
- ・なかなかこれも悩みに悩んでまとめた形であるのでさらによくなるよう努力したい。

【質問者 2】（新基本計画の性格の「市長の権限と責任」について）

- ・基本計画策定にあたっての基本的な視点として 3 点目の「市民にとってもわかりやすい計画」というのは非常に重要なことである。
- ・新基本計画の性格は、市長の権限と責任で策定するという言葉がよく理解できない。
- ・もう少し、「権限と責任」の意味をわかりやすく説明して欲しい。

【市長】

- ・権限と責任がなぜ強調されるかわからないというお話だがこれまでの総合計画は、市民の意見を積み上げ作ってきた総花的な計画だったのでないかとの反省に立っている部分がある。
- ・これからの時代の自治体経営においては、より一層市長がリーダー

ーシップと責任をとるという部分がもう少し出ないとダイナミックな自治体経営ができない。

- ・市民の意見は、色々ある。全部聞くことは難しいができるだけ聞く姿勢でやっている。
- ・それを判断していくのが市長の仕事であり、優先順位を指示して市長が責任をとるといふことでないとダイナミックな自治体経営はできないと思う。
- ・その場合、総花的な計画は役に立たない計画になる。
- ・やはり市長が責任をとるから優先順位をつけた計画にすることが【質問者1】さんからも評価いただいたわかりやすく使える計画になっていく必要条件だと思う。

【質問者2】（市長戦略編と分野別計画編に分けた意味について）

- ・基本計画が市長戦略編と分野別計画編に分かれているがよくわからない。前期で足りなかったものを組み入れて分野別の計画を作るのであればわかるが別個にしてやるのは市長の任期である平成27年2月以降の部分はどうなるのか。
- ・基本計画の中に市長戦略編と分野別計画編になぜ分けるのか。
- ・市長のマニフェストを受けて足りない点があれば分野別計画に追加するなどすればいいと思う。

【市長】

- ・市長戦略編と分野別計画をなぜ分けたかは、分野別計画に付け足す形ではなく、総花的にしないという意味でわざわざ重点施策という形で市長戦略編として取りまとめる形をとった。

【質問者2】（基本構想の一部見直しについて）

- ・総合計画の基本構想の一部を見直しするということがだが見直された場合は議会に議決事件として提出するのか。

【市長】

- ・構想部分は、従来の地方自治法で規定された議会での議決要件である。計画部分は従来から議会の議決要件ではなかったが小牧市においてはこれが明確に区分されてこなかった過去の経緯がある。
- ・基本構想と基本計画部分をより明確に分ける必要があるということが自治体経営改革戦略会議でも議論をされた。
- ・戦略会議の宮脇アドバイザーの言葉を借りれば、構想がいわゆる公理であり、市長の計画部分は正義であると発言され、私もそうだと思う。

- ・だれもが小牧のまちはこういうまちにしていきたいというようなものが構想部分に位置付けていくべきである。
- ・そういったものは議会の議決の中でやっていくことは望ましいし、また可能であると思う。
- ・一方で、計画部分について市長の権限と責任と議会の権限と責任をより一層明確にして責任をとらないところに権限なしという考え方を鮮明にしていくことが仕事を進める上で大事なことではないかという議論をこれまでしてきた。
- ・議会の議決事件として提出するのかについては、仮にこの計画について議会の議決を求めることが可能かどうかについては、これは不可能であると思う。
- ・計画の議決を求めることは議会としても承認をした計画になってしまうので誰もが認める計画でなければ計画として議決されないことになる。
- ・そうすると市長が責任をもって重点だという計画ができなくなる。
- ・議会が議決をしたならば、予算に対して議会がどのような態度をとるのかの問題にもなってくる。
- ・法律上明確な通り、議会の権限と責任はすなわち予算の議決権、決算の承認権が条例の議決権と並んで議会の非常に大きな権限であるので議会としては予算議決権でこれに関与していくことが望ましいと私は思っており、計画については議決事件として議会へ提出することはふさわしくないと思っている。
- ・基本構想の中に本来市長の権限である基本計画が入り込んでいる認識がある。
- ・これは自治体経営改革戦略会議の中でも共通認識になっていると思っている。
- ・仮に基本構想について、過去に議決をしていることをどう考えるかであるが、現状のところ議会には相談をしているが変更という議決については要さないのではないかと理解をしている。
- ・基本計画は市長の権限と責任の部分であるので計画を作った段階で重複して違っている部分については省かざるを得ないと理解をしている

【質問者 2】

- ・従来は基本構想だけであったが基本構想だけでなく基本計画も議会の議決事件として定めているところが他の市町村では多くなっている。
- ・個人的には総合計画は市長が作って、これですよ、ではなく議会も市民もみんなが責任を持つということであれば基本構想だけ

ではなく基本計画も議会の議決事件としなければ議員の方々は総合計画に対する認識や責任感がなくなると思う。

【市長】

- ・色々な考えがあると思うが私は計画部分を議決事件に加えることは政治、行政のシステムとしては間違いではないかと理解をしている。
- ・小牧は二元代表の中でお互いの責任をきちんと果たす仕組みをどう作るか、もたれあいや責任不在の形を作らないためにそれぞれが何をもって責任とするかをきちんとしなければならない。
- ・従来、あいまいで来た良さもあるかもしれないが仮に整理をするのであれば自治基本条例あたりで議論をする必要がある。
- ・仮に計画も議員も行政の中に入り一緒に責任を担う仕組みがないとはいわない。色々な仕組みが世界にはある。
- ・先般もワイアンドットに行ったが議員さんが6人みえる。
- ・議会は市長が議長をやっている。誰に発言させるかの権限は市長にあると言われる。
- ・市民が傍聴席から質問ができる。どの議員に答えさせるかは市長が指名できると言う。
- ・議員が市はこういう考えでこういうことをやっていると答える。
- ・責任は議会の全員が行政の責任をもっているのかと尋ねると共同責任だと言う。
- ・例えばアメリカはそういう地方自治であるが日本は違う。
- ・日本の議会は市長が行政の責任を一手に負い、議会はそれに対し予算の責任はあるが行政の運営は市長が責任をとる全く違うシステムの中で計画まで議会が議決をするのが果たして正しいかどうか、仮に議会が計画を議決するのであれば行政のスタッフとして入ってあるいは副市長や部長を議員が勤めて、一緒になって行政が責任を負うシステムもあり得ると思う。
- ・あり得ると思うがそうではないシステムの中では計画は議決できないと理解している。

【質問者 2】

- ・基本計画まで議決事件とした方がいいというのは現状では小牧市議会に二元代表制としての役割が十分に果たせていないのでそういう基本計画まで議決事件として責任感を持った方がいいのではないかと感じた。

【質問者 3】（地域づくりにチャレンジできる環境づくりについて）

- ・私は現実主義者で今話を聞くとちょっとなかなか難しいという

感じである。

- ・最近の経験から話をするが戦略2の「歳をとっても住み慣れた地域で安心して暮らせるまちをつくる」を進めていくにはやはり環境づくりが一番大事である。
- ・高齢者に対しての相談相手は民生委員さんや保健連絡員さんが実際にやられている。
- ・ボランティアで取り組んでくれる方もいるがまだまだ民生委員さんや保健連絡員さんに委ねているのが現実である。
- ・民生委員のなり手を確保するのも大変である。
- ・重点事業は具体的に書かれていて理解しやすいがこういう環境づくりするところにもう少し基本的にチャレンジできる環境を作っていないと高齢者対策はいけないという気がする。

【市長】

- ・【質問者3】さんのおっしゃることは一番大事なところだと思う。
- ・区長さん方や地域の現場で運営いただいている皆さんのご苦勞は大変なものだろうと思っている。
- ・なんとか引き受けてもらえる人がいるからまわっているが受けてもらえる人がいないとまわらない。みんなが受けようじゃないかという雰囲気、風土を作っていく必要がある。
- ・1つには区長でも民生委員、保健連絡員でもそうだが誰がやっているかわからないとか1年、2年やっても苦勞をわかってもらえないとかではいけない訳でして皆さんのお仕事やご苦勞が地域の中で伝わり見える形にすることが大事なことはないかと思う。
- ・その辺りがもう少しうまくできないかと思い、表彰制度や顕彰制度を充実できないかなどを職員と議論している。
- ・こういう言い方は怒られますが賞状1枚で喜んでいただければありがたいと思う。
- ・もう少し、朝夕の児童の登下校で旗を持ち立っていただいているような人知れずご努力いただいている方に広報こまきなどでスポットを当てられないかなど指示をしてやっているところもある。
- ・消防団も給料もらってやっている消防署の人と何が違うのかというレベルの理解である。
- ・あれもほとんどボランティアでやっていますしそういったことも理解が深まっていかないと苦勞してボランティアでそういった地域活動をやっていただくのは難しいと思う。私の感想であるがそんなことを思っている
- ・地域協議会であるが区長さんの議論を聞くと区長ですら大変なのにもっと大変なのではないかという議論がある。

・そうではなく今、区や区長が担っている、又は民生委員、保健連絡員が担っていたり、子ども会やPTAや老人会や色々なところの活動がある中で横の連携や区を飛び越えた連携がなかなかとれていない。

・民生委員さんも実態としてもう少し助け合いができないか。横の連携を取る中で全体として機能させれば一人ひとりの負担が減るのではないかと考えるわけである。

・小学校単位で進める中で強制はしないが区でやっている事業と重複をしている、あるいは全体としてやる方が効率的であるならば区の事業も見直されていくかもしれないから一度、全体が集まって小学校区単位でそういったものを作っていけないかと。ボランティアや手上げ方式でやりたい人が入っていける、職員も入っていく、議員さんも入っていく。全体で地域協議会をやっていく、そんなようなことができないかと考えているのでぜひ議論に加わりご協力いただければありがたいと思っているのでよろしくお願いしたい。